



関市板取の「杉」



■会 長 加藤照彦 ■副会長 西田泰幸 ■幹 事 伊佐治啓司



関市民 1000 人が参加して創りあげた  
シャインカーブリンアード「関二鳥」

## D2630 ROTARY CLUB OF SEKI WEEKLY REPORT



SERVE TO CHANGE LIVES

2021 ~ 2022 年度国際ロータリーテーマ  
『奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために』 SERVE TO CHANGE LIVES  
RI 会長：シェカール・メータ

関ロータリークラブ会長テーマ  
『和衷協同』 56 代会長：加藤照彦



### 本日のプログラム

第 2609 回例会 2021 年 10 月 12 日 (火)

「出席表彰」

「防犯カメラ設置促進対策」

関警察署 署長 吉田浩二様 ※オンライン例会

### 前例会の記録

第 2608 回例会 2021 年 10 月 5 日 (火)

「ベトナムのコロナ感染状況と事業活動の実態」

国際奉仕委員長 臼田龍司会員 ※オンライン例会

◆開会点鐘

◆会長挨拶



9 月 30 日で緊急事態宣言は解除されましたが、リバウンドの心配もありますので、例会場での開催は様子を見て戻して行くようにします。本日の卓話は、臼田国際奉仕委員長による「ベトナムのコロナ感染状況と事業活動の実態」についてです。建設業でも、住設関係の日本企業がベトナム工場を閉鎖して商品が入らないという影響が出てきています。非常に興味深い話になると思います。臼田さん宜しくお願ひ致します。

さて、「東京五輪 2020」が閉会して 1 ヶ月弱になりますが、終わってみれば経済効果は約 6 兆 1442 億円で、新型コロナウイルスの影響で 1 年延期となり、無観客となったことで当初の計画より大幅に減少しました。東京五輪・パラリンピック組織委員会や東京都、国の赤字が 2 兆 3713 億円で厳しい状況で終わりました。しかし、206 の国と地域から日本に集まったトップアスリート達が繰り広げた 339 種目を時差に関係なく毎日観る事ができる贅沢な 17

日間でした。アスリート達が夢や目標に挑戦する懸命な姿は、政治や商業化とは無縁の純粋なもので、多くの人々が勇気や希望をもらいました。ただ残念だったのは、「無観客」となったことで【人類がコロナに打ち勝った証し】という完全な形での開催にならなかったことです。これまで頑張ってきたアスリートの歓喜や悔し涙に、声援や拍手を会場で直接応援できなかったことは残念でした。開催延期を昨年 3 月 24 日に発表してから 486 日。この間、「開催する」と言い続けられた言葉を、社会は受け入れていませんでした。ただ、もし「2021 年にオリンピックは何が何でも絶対に開催する。その為に迎え入れる日本としては、全成人が開会式までにワクチン接種を終える」と、いつまでにどうあるべきかという目標と行動を明確に掲げていればどうなっていたでしょうか。覚悟を持って具体的な行動と結果を一つ一つ積み重ね、486 日間 夢や目標に近づく過程を社会全体で共有できれば、たとえ 100%達成出来なくても今回とは違う景色を見る事ができたかもしれません。今回オリンピックに参加した約 12000 人のアスリート達は、486 日どころか幼い頃から『オリンピックで金メダルをとる』という夢や目標を掲げ目指してきました。そして夢を叶える日から逆算して心身の鍛錬に挑み、すでにパリ五輪を見据えた日々が始まっています。終わってみれば、大きな赤字とコロナ禍という現実が残りましたが、486 日間の夢を現実にするまでの苦勞と失敗、17 日間で選手達が与えてくれた様々な感動と、学ぶことは沢山ありました。中小企業の経営者の多くは、コロナを理由に自身の事業継承や会社の成長戦略について、思考を停止し先送りしています。しかし、今こそ夢や目標を掲げ実行に移すことで、後ろから追いかけてくる人が出てきます。先は見えなくても逆風でも、

今始める時ではないでしょうか。アスリート達は、既に 2024 年パリ五輪を見据えています。アスリートも経営者も「孤高を持する人である」という点は共通している気がします。私たちも負けてはいられません。共に頑張りましょう。

#### ◆「ベトナムのコロナ感染状況と事業活動の実態」 国際奉仕委員長 白田龍司会員



本日は国際奉仕委員会の卓話として、「ベトナムのコロナの感染状況と事業活動の実態」という内容でお話をさせて頂きたいとおもいます。まずはじめに日本国とベトナム社会主義共和国の基本データを見てみたい

と思います。日本の人口は 1 億 2521 万人、ベトナムは 9762 万人、国の面積は日本が世界で 62 番目に対してベトナムは 66 番目で人口、面積は類似しています。首都は日本が東京、ベトナムが北部のハノイとなっており言語は日本語に対してベトナム語です。事業をするときに少し注目したのが宗教です。日本とベトナムは仏教徒が多く比較的根本的な考え方が似ていると感じています。次にコロナの感染の話に入ります。日本は 2020 年 1 月から感染者が発生し、9 月末までで 1 日の感染者数の MAX は 25485 人でした。感染者の累計は 170 万人という数字です。一方亡くなった方の人数は、1 日の MAX は 216 人、累計は 17612 人でした。日本の感染の特徴としては 2020 年 1 月から、第 1 波、第 2 波とはじまりつい最近には第 5 波あり、段階を追って感染者が増加してきました。一方ベトナムの感染の状況を見てみると 2021 年 4 月末までは累計の感染者が 3000 人と他国と比べると極端に少なく抑えることができていました。ベトナムはコロナの封じ込めに成功した国だと称賛され、他国からも注目されていました。其れには、国を挙げ早い段階からの、クラスターの封じ込めや、地区の閉鎖など、徹底した対応があったからであると思います。しかし、2021 年 7 月末以降、その優等生の国の中で急激にデルタ株の感染が広がってしまいました。逆に日本のように第 1 波、第 2 波・・・と順を追った感染ではなく、一気に日本の第 5 波位の感染者数となってしまう、今まで優等生だった分医療機関、隔離施設が一気にパンク状態になってしまいました。更に、日本と比較すると亡くなる方の数が倍以上で、1 日 800 人を超える死者が出ています。この死亡者の数はベトナム政府が吸上げられる数であり、当社の現地スタッフによるとそれ以上に亡くなられた方がいるという事でした。

日本と比較すると亡くなる危険が大きくなり、ベトナム人にとってはコロナへの感染は大きな恐怖になっています。そのような状況で事業活動は基本的にロックダウンと同時に停止されることとなります。しかし、例外として、自社の工場内で従業員の衣食住が出来る環境を整え、工場内で隔離しながら生産活動をするのであればよとの通達が出されました。いわゆる工場内隔離です。当社としても生産活動を継続させたいため工場の中に新たに食堂、リビング、シャワー設備、そしてベッドルームを作り、20 名の従業員を工場内隔離して生産活動を実行しました。しかし、工場内に隔離しているとはいえ、食料を運んでくる業者、材料を持ち込む業者などがあり、開始 10 日程度で当社内で 3 名の感染者が発生してしまいました。工場内で感染者が発生すると、事業停止命令がでます。当社も例外なく 3 週間の事業停止を余儀なくされました。しかし、工場内で隔離している従業員を帰宅させることはできず、継続して工場で隔離しなければなりません。これは当社のみではなく、労働集約型の工場も同じ状況になり、生産が出来ないまま、数百人という従業員を隔離し続けなければならない状況になりました。この状況は想像の通り、出費が多く企業にとっては大きな打撃となっています。また、食品を製造する工場も生産が出来ない状態になり、食料の調達も不安な時期があったようです。このように、日本とベトナムではコロナに対する対応や結果、それに伴う経済活動、事業活動が大きく違っています。どちらが良いのかは分かりませんが、日本の会社がベトナムに進出している企業にとって、非常に不安な時期が続いています。また、今後の事業活動にも大きな影響が出ると思いますが、条件は皆同じです。この危機をチャンスに変えられるようにポジティブに捉え、どこの企業よりも早く立ち上げられるように努めたいと思っています。以上で、国際奉仕委員会からの卓話を終わります。

#### ◆幹事報告

◎財団奨学生の川崎詩歩さんから、近況報告が届きました

◎10 月のロータリーレート 1 ドル:112 円

次例会のご案内 10 月 19 日(火) 12:30

「考えていますか？防災対策」

関市市長公室危機管理課 課長補佐 渡辺活広様

※オンライン例会